

特集
綾瀬の
教育

研究推進校の指定など さまざまな活動を実践

市教育
委員会

確かな学力の育成のために

図教育指導課 ☎ 70・5660

市内の小・中学校では、学力向上のために学校ごとに研究テーマを設定し、校内研究に取り組んでいます。また、地域や児童・生徒の実態に応じ、さまざまな教育活動を実践しています。

思考力・判断力・表現力の育成

各学校では学習指導要領にのっとり、「生きる力」を育むという理念の下、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力という、知・徳・体をバランス良く育てていくことを目指して教育活動が行われています。

校内研究で授業改善

市内全ての小・中学校では、子どもたちの確かな学力の向上を図るため、より分かりやすい授業を行うとともに、教科指導方法の工夫改善を行う校内研究に積極的に取り組んでいます。

まず、全ての教員が年1回以上の公開授業を行い、その後は研究協議を実施するなど、授業改善に取り組んでいます。

市教育委員会では、校内研究の充実を図るため、専門的知識と豊富な経験のあ

る大学教授などを指導者として各学校に派遣し、授業改善に役立てています。

また、各学校と協議してテーマを設定し、先導的な校内研究を進めています。今年度は落合小学校、早園小学校、北の台中学校を市の研究推進校に指定しました。

言語活動の充実

言語活動を充実するため、各学校では、児童・生徒が調べたこと、考えたことを分かりやすく発表することや、疑問に思ったことに対して自ら解決方法を考え、結果を導き出す授業に努めています。

また、資料を読み取り、考えたことを説明するほか、自分の意見をまとめた上で意見交換の場面を設定するなど、言語活動の充実を図っています。



▲6年生の道徳の授業では、資料を読み、「友について、本当の友情とは何か、友情を深めていくにはどう行動したらよいかを考えました。(落合小学校)



▲3年生の美術の授業では、実物大の「ゲルニカ」(パブロ・ピカソ作)を鑑賞し、作品を体で感じた後、作者の気持ちやねらいをグループで話し合いました。(北の台中学校)

子どもたち一人一人の成長を目指して



▲23年度から小学校高学年の外国語活動が必修になり、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指し、ALT(外国語指導助手)とともに外国語活動を行っています。(寺尾小学校)



▲他校児童との交流と将来の自立を促すことを目的に、小学校特別支援学級の児童を対象に1泊2日の合同宿泊学習を行っています。昨年10月には、「愛川ふれあいの村」(愛川町半原)で行われ、4年生以上の児童が参加しました。(全小学校)



▲心の教育推進事業の一環として、市内の教員と地域、保護者に向けて毎年授業公開を実施しています。昨年10月21日に綾北小学校、11月15日に綾北中学校、今年1月29日には綾西小学校で行いました。(写真は綾北中学校のもの)